

明智光秀公ゆかりの地

2020年  
大河ドラマ  
『麒麟がくる』  
放送決定!!

# びわ湖大津 の城跡

大津・幻の城ゆかりの地を歩く

- ◇明智光秀の幻の水城・坂本城
- ◇関ヶ原の勝敗を左右した・大津城
- ◇湖上に浮かんだ雄姿・膳所城



坂本城址公園「明智光秀像」



西教寺総門



明智光秀とその一族の墓

滋賀県大津市

# 大津の城跡

「戦国時代、覇権争いに揺れた  
幻の城跡を訪ねて大津へ」

琵琶湖と比良・比叡・長等など数多くの山並みに囲まれた大津は、戦国時代、京都と東国の中間に位置したことから、数多くの城が築造され、日本史の表舞台にも度々、登場。本能寺の変で織田信長を討った明智光秀の坂本城をはじめ、関ヶ原の戦いの前哨戦として有名な大津城など、天下統一の夢をかけた、ロマンあふれる舞台が、ここに。

「山城から平城へ、時代と共に  
変化した天下取りの拠点」

日本の城は、時代ごとの目的に応じ、場所や規模、形などが違う。例えば宇佐山城のように険しい山頂に造られた「山城」は、軍事基地的な意味合いが強く簡素で小規模なものが大半。その後、国取り合戦が激化しさらなる勢力拡大のため、城は防衛主体から領地を統治し、政治・経済の中枢を担う「平城」としてより交通の発達した平野部へと移っていく。大津城や膳所城などが、その典型と言える。

**壺田城**  
信長軍の武将・坂井政尚が、朝倉・浅井軍と死闘を繰り広げた水城。

**雄琴城**  
明智光秀に仕え軍功をあげた和田秀純が天文七年に築城。

**壺笠山城**  
志賀の陣で朝倉・浅井連合軍が立て籠り信長軍と戦った山頂の城郭。

**宇佐山城**  
京都へ通じる2大幹線を封鎖しその間に築いた森可成の居城。

**坂本城**  
明智光秀が信長の命を受けて築いた、豪華華麗な名城。

**大津城**  
関ヶ原での東軍勝利に貢献した京極高次の籠城戦で有名な水城。

**膳所城**  
築城の名手と名高い藤堂高虎が縄張りを担当した、湖上の浮城。

**石山城**  
石山寺の裏山の山岡氏の砦。元亀四年に足利軍と織田軍が戦う。

**瀬田城**  
本能寺の変後、城主山岡景隆が瀬田橋を焼き落として光秀と対戦。

**田上城**  
甲賀郡の土豪多羅尾氏がこの地に築いた城。別名多羅尾城とも。





# 膳所城

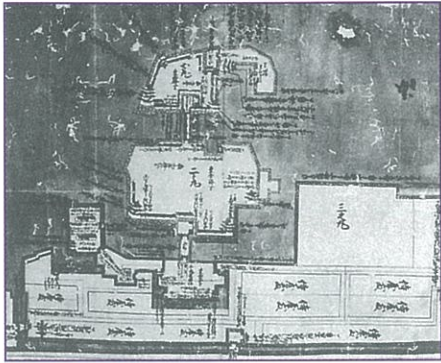
築城の名手、藤堂高虎が  
築いた、湖上の浮城

湖上に映える雄姿は  
日本随一の美しさと伝わる

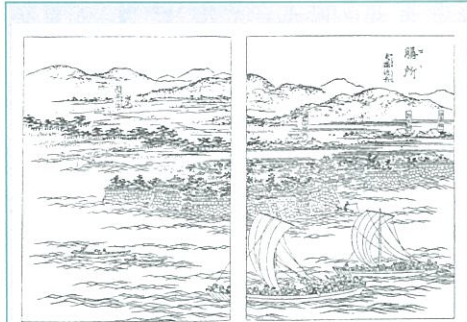
徳川家康は関ヶ原の合戦後、軍事的に不利な大津城を廃城にし、翌年、やや東南の湖岸に膳所城を築城。「天下普請」第一号の城となる。縄張（築城設計）は築城の名手・今治城主の藤堂高虎が担当。湖中に石垣を築き、本丸と二の丸を配置し、両者は廊下橋でつながれ、二の丸の北には北の丸、南にはし字型の帯曲輪が付く特異なかたちをしていた。さらに本丸には四層



膳所城データ / 慶長六年(1601)～明治三年(1870)  
城主 / 初代城主・戸田一西の後、本多氏、菅沼氏、石川氏と城主は次々と変わり、慶安四年(1651)本多俊次以後は、本多氏が十三代に渡り城主を勤め、明治維新を迎える



寛文大地震の被害状況を記した膳所城絵図  
膳所城修復願ヶ所絵図(滋賀県立図書館蔵) ※  
寛文二年の大地震は現高島町を震源とするもので、マグニチュード7.6。膳所城もかなりの被害を受け、この時の改築で藤堂高虎の縄張りも、堀を埋めるなど、相当に変更、改築された。



●「近江名所図会」に描かれた膳所城 ※  
膳所城は湖上に浮かぶその優美な姿から、東海道を往来する人々の評判となり、近江八景や浮世絵などに盛んに描かれた。「瀬田の唐橋、唐金擬宝珠、水に映るは膳所の城」と歌にもなる。



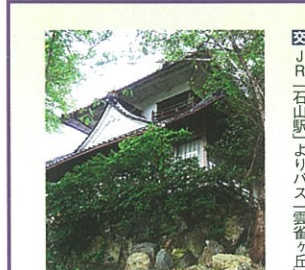
●膳所城公園と城下の街並み  
明治維新の廃城によって膳所城は失われてしまったが、市内には城と城下町の遺構が数多く残り、当時の様子を偲ぼせる。

「市中に残る数多くの遺構や城下町の面影が、当時を物語る」

現在、膳所城の本丸跡は公園として整備され、入口には復元された城門と城壁、天守閣跡には石碑がたち、石垣及び堀の一部が遺構として残っている。当時の建造物は明治時代にすべて取り壊されたが、膳所神社、篠津神社に移築された城門が、いずれも重要文化財になっているほか、蔵や二重櫓なども市内に残っている。ぜひ併せて巡りたい。

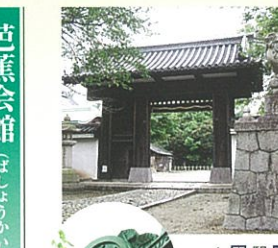


●篠津神社  
表門は膳所城の北大手門を移築。



膳所城ゆかりの遺構には、本多家の「立ち葵」の紋がみられるものがある。探してみるのもおもしろい。

芭蕉会館(ばしろうかいかん)  
昭和39年、芭蕉270年忌記念事業として、茶臼山中腹に建設。前庭からは芭蕉が生前愛した湖南の風景が一望。膳所城本丸東正面の二重櫓を移築改造したもの。  
JR石山駅よりバス(雲雀ヶ丘)下車、徒歩5分



膳所城本丸跡地の近くにある神社。中世には諸武将の崇敬が篤く、社伝には豊臣秀吉や秀吉夫人の北政所、徳川家康などが神器を奉納したという記録が残る。表門は明治三年、廃城となった膳所城から移築されたもの。  
瓦には立ち葵の紋がみられる。  
JR阪本町駅下車、徒歩1分  
077-522-1167

## 膳所城ゆかりの地を訪ねる

縁心寺(えんしんじ)  
膳所城の初代藩主・戸田一西が慶長七年に創建した膳所藩主の菩提寺で、境内には、石の玉垣に囲まれた五輪塔型の本多家歴代墓などが並び、また戸田一西の木像をはじめ、膳所藩に関する資料なども多く保管されている。  
JR阪本町駅下車、徒歩8分  
※拝観要連絡

膳所神社(せせじんじゃ)  
膳所城本丸跡地の近くにある神社。中世には諸武将の崇敬が篤く、社伝には豊臣秀吉や秀吉夫人の北政所、徳川家康などが神器を奉納したという記録が残る。表門は明治三年、廃城となった膳所城から移築されたもの。

※ふるさと大津歴史文庫2 大津の城 平成5年 五版(発行:大津市)より転載(協力:大津市歴史博物館)

# 大津城

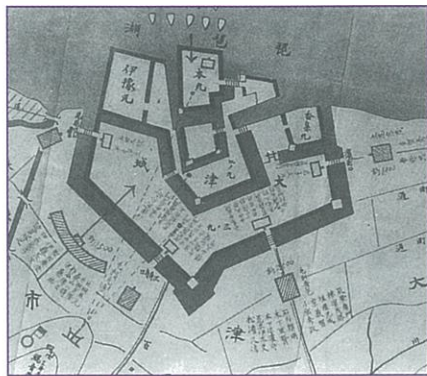
関ヶ原の勝敗を左右した  
と言われる大津城の攻防。

「関ヶ原へ向う毛利軍を足止め、京極高次、決死の籠城」

本能寺の変から四年後の天正十四年ごろ、秀吉は坂本城を廃城にし、大津に城を移す。大津に大津百艘船仲間を作らせ、琵琶湖水運の要衝とすることで、新たな戦略的拠点を築く。初代城主は浅野長吉（のち長政）。その後、数名の城主を経て、文禄四年、京極高次が近江八幡城から移り、六万石で城主となる。その後、関ヶ原の戦いが勃発。高次は妻のお初が浅井長政の次女であったことから



大津城データ / 天正十四年(1586)～慶長五年(1600)  
城主 / 浅野長政、増田長盛、新庄直頼、京極高次



大津籠城の合戦図（『郷土戦史』より）※  
京極高次は籠城の際に、大津城下をおよそ14時間もかけて焼き払っている。これにより大津城下は荒野と化し、瀬田近辺から三井寺のあたりまで、田畑もすべて刈り取られたと言われる。



市中に残る大津城の石垣（中央一丁目）  
曳山展示館の裏手に、外堀と言われている石垣が一部現存している。付近は町家が多く残っているため、当手を想像しながら歩いてみるのもよい。

（長政の長女・茶々は秀吉の側室、三女のお江は徳川秀忠の妻）、難しい立場に立たされる。ひとまず三成側の西軍に属し、北陸討伐へ向かうも足は重く、突如、東軍への寝返りを決め、海津から船で大津城へ帰還し、3千人の兵と共に籠城。関ヶ原の前哨戦として毛利元康率いる西軍1万5千人が攻めるも、堅い守りの前に落城まで8日を要した。奇しくもその日は徳川軍が西軍を打ち破った日。ここで足止めされた大軍は結局、関ヶ原での本戦に間に合わず、これが勝敗を左右したとも言われる。

その後、大津城は長等山から砲撃射程に入るとい理由で廃城となり、代わりに膳所城が築かれる。大津城の天守閣は彦根城に移築され、城門等は膳所城に多く移築された。

「秀吉への忠誠心を貫いた戦国武将・石田三成の最期」

関ヶ原での勝利後、家康は大津城に入城。そこへ捕縛された三成が連行されるが、すぐに対面は許されず、城門前に敷いた畳一帖の上で晒し者にされた。登城してきた東軍諸將の反応は様々で、罵倒・嘲笑する者あり、慰めの言葉をかける者あり。小早川秀秋に至っては「この卑怯者め」と反対に三成に一喝されたとか。その後、三成は六条河原で処刑された。

「琵琶湖の水運を握った「大津百艘船」」

天正十五年、豊臣秀吉は水陸交通の要衝で京への東玄関となる大津の港にいち早く着目。水運の発展と軍事利用を目的に、湖上での特権と保護を条件に、浅野長政は船を集めて「大津百艘船」を組織し、船奉行を設置して琵琶湖の水運をその支配下に治める。輸送には「丸子船」と呼ばれる琵琶湖特有の和船が使われ、最盛期の江戸中期には、約1300艘もの船が運行していたと記録される。こうして大津は琵琶湖の物資が集散する港町として、また東海道の宿町として、発展していくことになる。



丸子舟  
琵琶湖に蒸気船が登場するまでは、湖上交通には丸板船が使われた。丸板船は丸を立てて並べ、側面には丸を半分にして取り付けた独特の構造。（復元模型・大津市歴史博物館蔵）



彦根城  
姫路城などと並び、天下の名城の一つに数えられる彦根城は、井伊直継と直孝によって約20年の歳月をかけて建設され、元和8年に完成。大津城の天守が移築されたほか、佐和山城や長浜城など、いくつもの城の城門や石垣などが使われている。琵琶湖八景の一つで、天守は国宝。  
JR「彦根駅」下車、徒歩15分

## 大津城ゆかりの地を訪ねる

大津別院（おつべついん）



真宗大谷派（東本願寺）の別院。信長に敵対した本願寺の教如が創建。徳川家康が上洛の時に泊まった居館だった。本堂は、外陣が広くとった典型的な真宗寺院で、書院とともに桃山建築の様式が見て取れる。また書院の天井には金地濃彩の円形草花図が描かれるなど華々しく、見る者を圧倒する。  
JR「大津駅」下車、徒歩5分  
2.6960（拝観は事前連絡必要）

大津市歴史博物館



三井寺の北隣に位置し、大津の文化財や資料を収集、公開している。復元模型やイラスト、映像などを使って、大人から子供まで楽しみながら大津の歴史が学べる。大津百艘のコーナーでは、江戸時代の町民の生活が復元模型で親しみやすく再現されている。他にも膳所城坂本城の出土品、光秀の書状などの展示もある。  
JR「大津駅」下車、徒歩15分または京阪「大津市役所前駅」下車徒歩5分  
077-521-2100（常設展 大人300円、月曜休館）

和田神社（わだじんじゃ）



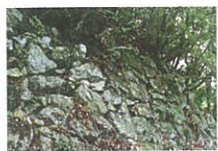
本殿は鎌倉時代の建築で、国の重要文化財に指定されている。表門は膳所藩の藩校「遊藝堂」の門を移築したもの。また、境内にある銀杏の太木は樹齢600〜650年といわれ、関ヶ原の戦いで敗れた石田三成が京へ護送される中、つながらたという伝説が残っている。  
京阪「膳所本町駅」下車、徒歩10分  
077-526-0977

※ふるさと大津歴史文庫2 大津の城 平成5年 五版（発行：大津市）より転載（協力：大津市歴史博物館）

# 宇佐山城

## 比叡山焼き討ちの際、光秀が拠点とした城

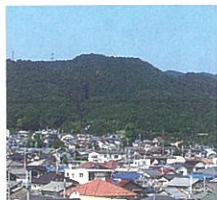
元亀元年四月、織田信長は越前の朝倉義景を攻めたが、同盟者である浅井長政の離反により失敗。体勢を立て直す為、岐阜城へ戻り、宇佐山城には、家臣の森可成（森蘭丸の父）を配し、朝倉・浅井軍に対する守りを固める。同年七月、三好三人衆の摂津進軍に対して信長も摂津へ出陣。その隙をつき、連合軍は湖西を南下する。宇佐山城を守っていた森可成は、その進軍を止めるため出陣し、討ち取られてしまう。それを知った信長は、摂津から戻り、連合軍と対峙し、年末に和睦する。翌年、明智光秀が宇佐山城に入り、比叡山焼き討ちのため、地元の土豪を懐柔するなどの活動を行っていた。



山中に残る宇佐山城跡の石垣 ※

## 眼下に望む山中越に、要衝の地であったことを実感

宇佐山城の遺構は、標高336mの宇佐山頂にあり、放送局のアンテナが目印。近江神宮に隣接する宇佐八幡宮の参道から登ることができる。南北に細長く延びる尾根上に、北から三の丸、本丸、二の丸、その周囲に小規模な郭がある。石垣も随所にあるが、高いものは現況ではあまり見られない。北方より眼下に今道越（山中越）が一望できる。



宇佐山城跡はNHKの鉄塔が目印



宇佐山城データ/元亀元年(1570)～城主/森可成、明智光秀



●宇佐山城縄張図

(注) 城跡への山道は整備されていません。ご注意ください。

# 堅田城

## 信長軍の生存者はわずか4名、死力を尽くした湖上の激闘

元亀元年九月、浅井・朝倉連合軍は湖西を南下し、坂本に駐留する。延暦寺もこの連合軍に呼応し、織田信長と対峙していた。両者の膠着状態が続く中、堅田の一部土豪が信長に与り、堅田城に籠っており、そこへ信長の武將である坂井政尚等も加わっていた。そして十一月、反信長の勢力は、堅田城に押し寄せ、坂井はじめ主だった武將が討たれる。その後浅井・朝倉連合軍と信長の和睦が成立している。

## 江戸時代、幕府の直轄領として栄えた、堅田藩陣屋跡

江戸時代、堅田藩の陣屋が所在し、湖族の里として栄えていた。堅田の地形は、掘割が巡る天然の要害となっていたが、堅田城がどこにあったかは定かでない。江戸時代になって、堅田藩が誕生すると、湖岸に陣屋が設けられる。陣屋については絵図が残り、南は伊豆神社、北は堅田港、西は瑞穂寺、東は琵琶湖に面し、本堅田に現存する石造りの大橋に当時は偲ぶことができる。



●都久夫須麻神社



湖岸部には、今も随所に掘割が見られる。

## 坂本城ゆかりの地を訪ねる

### 日吉大社 (ひよしだいじ)

古事記に登場する古社。織田信長の焼き討ちで境内が全焼、死後の天正十四年(1586)年に西本宮本殿(国宝)が再建された。信長存命中は表立されたことが出来ず、織田家臣の浅野長政は内密に材木を寄付している。現在は約40社の社殿群が建ち並ぶ。



●JR比叡山坂本駅よりバス日吉大社下車もしくは京阪電車坂本比叡山口駅より徒歩10分  
077-578-0009

### 滋賀院門跡 (しがいのんもんじ)

天海大僧正が京都・北白川の法勝寺を移転したものとされる。江戸時代末まで天台座主の居所であった。穴太衆積み石積みと白壁をめぐらせた門のほか、江戸時代初期、小堀遠州の作庭とされる国指定名勝庭園や狩野派の襖絵が鑑賞できる。



●京阪電車坂本比叡山口駅より徒歩5分  
077-578-0130

### 盛安寺 (せいあんじ)

創建は不明だが、戦国時代に越前朝倉氏の家臣である杉若盛安が再興し、自分の名を付けたと伝えられる。桃山御殿の異名をとる客殿、聖衆来迎図を表現したという江戸時代の庭園、明智光秀の陣太鼓などがある。



●京阪電車穴太駅より徒歩5分  
077-578-2002

## 古都おおつ観光ボランティアガイドの会

大津市の魅力を地元ボランティアガイドがご案内。  
交通費としてガイド一人あたり  
料金 **2,000円** (比叡山延暦寺は**3,000円**)  
原則**10日**前までのお申込が必要。  
お問合せは下記の観光協会まで  
<http://www.otsu.or.jp/information/archives/197>

## 発行・観光のお問合せ / (公社)びわ湖大津観光協会

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番3号市民文化会館内  
TEL: 077-528-2772 FAX: 077-521-7330  
URL: <http://www.otsu.or.jp>

協力/大津市歴史博物館・大津市埋蔵文化センター・滋賀県立図書館

参考/ふるさと大津歴史文庫2大津の城 5版(発行:大津市)  
近江歴史探訪マップ3 織田信長、危機一髪 高島七頭と元亀争乱 (発行:滋賀県教育委員会事務局文化財保護課)  
信長戦国近江(発行:大津市歴史博物館)  
大津 歴史と文化(発行:大津市)  
近江歴史探訪マップ5 おおつ湖都古歴史散策 (発行:大津市歴史博物館)  
近江のお城46選(発行:滋賀県教育委員会)

## 【電車でのアクセス】

- JR大阪駅 ..... 新快速で約40分 ..... **大津駅**
- JR三ノ宮駅 ..... 新快速で約1時間
- JR名古屋駅 ..... 新幹線(のぞみ)で約35分 ..... **京都駅**
- JR東京駅 ..... 新幹線(のぞみ)で約2時間20分
- JR博多駅 ..... 新幹線(のぞみ)で約2時間50分
- 京阪三条駅 ..... 京都地下鉄のりかえで約22分 ..... **びわ湖浜大津駅**

